



(號五十九百二第)

無始無終の國體  
 聖德太子の憲法  
 日蓮聖人教義綱要  
 愛國と世界

本誌主任 大僧正 正  
 松尾城 鼓生 日成 治  
 本多村 榮治  
 井本 永

和歌「閑庭草花」  
 機微譚語 九二 苦樂超越  
 大聖日蓮  
 本多本團總裁の雄飛

清岡長言選  
 山根青村  
 松浦祥海  
 中原通應報

### 統一團支部設立に就て

統一團支部設立の事を發表致しましたら、千葉町を初頭として大阪其他より續々と申込みがありました。今尙一層募集の手を擴げつゝありますから其の發表期は少しおくれることゝなります。我々は本多本團總裁を中心として全國に大輪廓を描き、手を繋ぎ足拍子を揃へつゝ總裁の所謂『國民教化』の大運動を起さなければなりません。志あるの士は此際この設立に對して大に協賛の聲を寄せていたゞきたいのです。(前號本欄の廣告を御參考下さい)

### 統一團支部設立に就て

統一團支部設立の事を發表致しましたら、千葉町を初頭として大阪其他より續々と申込みがありました。今尙一層募集の手を擴げつゝありますから其の發表期は少しおくれることゝなります。我々は本多本團總裁を中心として全國に大輪廓を描き、手を繋ぎ足拍子を揃へつゝ總裁の所謂『國民教化』の大運動を起さなければなりません。志あるの士は此際この設立に對して大に協賛の聲を寄せていたゞきたいのです。(前號本欄の廣告を御參考下さい)

所編輯一統町前山白川石小京東 所扱取務事行發

▶ 番三三五三三京東座口替振 ◀

▲本誌事務取扱所 東京市小石川區白山前町統一編輯所(▲本誌定價一冊發行所東京市淺草區北清島町十四番地編輯兼發行人松尾英四郎(▲印刷人鈴木日雄(十三號郵税五厘))

念珠ならば小野嘉助店へ  
 日蓮宗各本山御用達  
 顯本法華宗妙滿寺御用達

**御念珠各種**

弊店の特色は實用を旨とし從來調進仕り候へば多少に不拘御用命願上候

京都市寺町通蛸薬師下ル  
 念珠 小野嘉助  
 電話 中二六〇八番  
 振替口座大坂一九七二〇番

**●布眼薬 田血の薬(廣告)**

諸君各位愈々御隆昌奉賀候陳者多年御眷顧を蒙り居り候布田眼薬及び布田血の薬は世界戦亂の影響を受け平和和克復と相成り一層原料薬品を始め附屬品製造費共暴騰甚しく到底満定價を維持すること能はざる場合に立ち至り候に付誠に乍遺憾七月三十一日限り左記の通り薬價改正仕り候最も自今一層原料の精選に努め専ら品質本位を以て發賣候間何卒弊舖の苦衷幸に御諒察の上倍舊の御取引被下度候也

追て右日限内と雖も既製薬賣盡し次第新定價薬發賣仕り候間是亦不忽御承引願上候也

眼薬定價一瓶拾五錢、三拾錢、五拾錢、七拾五錢  
 布田血定價二包入拾五錢、十五包入壹圓

大正八年七月十五日  
 千葉縣山武郡源村上布田藥王寺  
 布田眼薬 布田血の薬本舖 齋藤日章  
 (注文は振替東京六七九一齋藤日章宛)

日蓮各宗 寺院 御僧

法衣 草木 一直に御聯想下され候儀に候

京都 三條通烏丸東入ル町  
**草木本店**  
 電話 中七三五番  
 振替口座東京二一五五九番

東京淺草區三好町二番地  
**草木支店**  
 電話 下谷三三四三番  
 振替口座東京二四五六八番

佛具調度所

位牌木鈺 宮殿幢天蓋一式

▲普通品定價郵券貳錢封入送呈  
 總本山身延山 總本山妙滿寺 大本山本國寺 日宗各教團

京都寺町四條南大雲院前  
**辻井岩次郎**  
 振替大阪八一五七番  
 電話 下三二五八番

舊名「乾清」事  
 大佛師  
 多少に限り御奉願上候也  
 ●御用仰せ被下候は、叮嚀深切を旨と致候●

佛壇佛具一切卸小賣

店三十員 六五四リ 迄 名六五者之 御世語下候

京都市三條通小橋西入中島町  
**卸部三法堂 藤田總治**  
 長距離電話中二七八三番  
 振替口座東京二〇七九番  
 大坂 四二五九番

小賣部 三法堂 佛具陳列場

各宗御本山御用達  
 佛具調度所  
 同町 小橋東入

定價表 郵税四錢



謹啓 過般御地監督布教の際には種々御配慮に預り爲法奉感謝候 豫定の巡教を結了致し去る十五日無事歸山仕候 申す迄も無之寺檀和合内に信念を増進し外に正法を發揚し以て各自の本分を全ふせられんことを爲法爲國祈上候

先は以略書禮辭申述候敬具

大正八年七月廿一日  
 岡山市山崎町本行寺駐在  
 監督布教師 能仁 事一

(行印會秀三 地雷一目丁二町代士美區田神市京東)



轉住廣告

鳥取縣東伯郡松崎本立寺住職 富田林惠

一金伍拾圓也
右は伯耆國松崎本宗大且那市橋昌晴氏より先考龜藏氏法號顯照院殿龜鏡日誓居士追善菩提の爲として同地本立寺住職富田林惠師の手を経て本誌統一擴張費の中へ振替口座東京三三三三番を以て振込み寄贈相成り正に領收候也
東京市小石川區白山前町十七番地
統一編輯所

●力産會に就て

力産會は通一般的社会的俗業ではありませんが、其發起人の大部分は熱烈なる日蓮主義者でありまして、此の事業に依つて目下險惡な潮勢を示して居る資本労働問題を實際上の仕事の上から解決を致さうと云ふ見地から發した日蓮主義的活運動の一つであります。此會は凡そ誰人でも正業な力産者は入會が出来ます。前號規則に訂正を加へた點は百口を以て一組とした點であります。第一組は既に満員べ切てあります。今や労働者は同盟罷工とか國際労働會議參列代表の選定とか、色々騒いで居る間に、我力産會はズン／＼大きな仕事の成

功に向つて急進します。諸君御賛成を乞ふ、賛成者は統一編輯所へ御申込み下さい。

●力産會の反響

扱て御親切にも懸々「みたから」御返附は誠に難有奉萬謝候貴會の「力産論」はある程と深く感激共鳴海の如く大且つ深に御座候眞に法華經的御開眼にて世界萬代を照らす大法燈に候尤佛の「順正法」の遺勅令更の如く感ぜられ尊く有之!!何卒對世界的の御活躍いやましに奉萬新候又貴下の錦上花たる諸名吟感嘆無限に入賞蓋がお慕はしく御座候力産會の御設置皇國のため奉萬賀候世界労働問題解決の根本大藥王は法華經を通して顯現せる賞會のみと深く感嘆致候何卒全世界に大宣傳(プロパガンダ)矣々も奉願上候暗夜の燈は實に此事と存上候往生もその内御加盟申上げ慶喜入候先は御謝禮旁如此御座候頓首
松浦祥海

無始無終の國體

て來る所を稽ふるに素原を宇宙神に發し(天御中主の大神)生産妙用(神高二神)の理法に因つて發芽し、陰陽形體(諸冊二神)を生じて本全神の應顯(天照大神)あり、而して此に地上皇基の根源を開く、皇室の淵源と臣民の素性實に斯の如くにして泉發す。是れ天然自然の發源にして神力の致すところなり、大天を體として無限無始の時より流れ出でたる國體なり。即ち天無窮なるが故に壞無窮なる所以を知るべし。佛國哲學博士ポール、リシャール氏曰く「外國の皇帝は將軍なり(帝國主義の覇權者なり故に盛滅あり)日本の天皇(天産の王者なり天と共に不滅なり)は將軍にはあらず、天皇は其頭を天に有し(無始)其足を地に有するものなり」と彼亦知れりと謂ふべし。萬

世一系の皇統豈私ならんや。斯の如き幽玄なる理の下に古來邦人我皇室を神聖視し一人の疑ひを挾むものなく來りしに、近來有滅有限の國家より外に會て知ることなき諸外國の風潮來襲し之に盲染して我國體をも亦有限有終なりとする者あり。奚ぞ淺薄無稽の甚しき。夫れ壽量本佛久成にして無始無終也、而して一佛のみ。此理を我皇室に移し觀ば、地上の天皇亦無始無終にして一人の外を許さず。天に一日、地に一王とは是也。片々たる私造玉滅する時、一大統王の出現なくなからんや。近來の風潮或は之れを意味せるものなりとせば亦恐るゝに足らず。寧ろ祝すべし。三千年は短しと云ふ者あり。然れども三千年は無始に即したる三千年にして而して無終に即したる三千年也とせば實に幽久尊むべき三千年ならずや。尙論ありや如何。

無始無終の國體

本多日生猊下著述

日蓮聖訓要義

全部拾貳卷
各一四六頁總クロ
冊一冊入約三
百頁類美本
定價各金壹圓五拾錢、郵税内地十二錢滿洲廿四錢
第一卷 (既刊)
(一)緒言。(二)法華大綱鈔。(三)法華鈔。(四)法華取要鈔。(五)如說修行鈔
第二卷 (既刊) (六)立正安國論。(七)開目鈔
第三卷 開目鈔全部

聖語錄

總クロ一冊裝幀
極美紙數九百頁
定價貳圓貳拾錢、送料拾貳錢、滿洲廿錢

開目鈔詳解

總クロ一冊裝幀
極美紙數約三百頁
定價貳圓貳拾錢、送料拾貳錢、滿洲廿錢

本多日生猊下新著

東洋文明の權威
四六版三百五十二頁
定價壹圓八拾錢、送料拾貳錢、滿洲廿錢
日蓮聖人正傳
正價壹圓八拾錢
日蓮聖人の感激
正價壹圓八拾錢
日蓮主義綱要
正價壹圓八拾錢
國民道德と日蓮主義
正價壹圓八拾錢
日蓮主義
正價壹圓八拾錢
修養と日蓮主義
正價壹圓八拾錢

# 聖徳太子の憲法

四月號の續き

## 本多日生

此の前は聖徳太子の憲法の事に付いて話をしたが時間の都合で少し残つた。今日は憲法の第九から話をしたいと思ふ。

### 第八は 虚言を弄しては否

政治に策略があり、商業に機變がある然れども虚言偽計は絶対に禁ぜねばならぬ事である、どうも日本人が商業道徳を重んぜぬと云ふことは世界周知のことである。甚しきに至っては糊付の靴、石入の織詰を販賣して怪まざるに至る、雷に製造業者が斯る奸策を取てするのみならず製造に従事せる職工も亦努力を吝みて粗製濫造に汲々たるは豈慨嘆せねばならぬてはありませんか。

### 第九は 人は平和の精神を持たなければいけない

平和の精神がなければ、事を爲すに當つて満足に仕遂げる事が出来ない。物事

が兎角亂雜になり勝ちのものである。又精神が平和でないと心の動搖を来し易いのである。つまらぬ事に腹を立てたり肝癪を起したりするのは心に平和がないからである。其次は

### 第十は 世の中には掟が無ければいけない

國には法律があり又、會社工場等には一定の掟と云ふものがある。其掟は必ず之れを守らなければならぬので掟が無ければ秩序が立たないのだ。其次の

### 第十一は 君は唯一人と云ふ事だ

國には萬世一系の天皇が唯一人しかいない。それから又、假へて示へば君等が揃える船の船長が二人居るとしたならば一人の船長が右へ進めと云ふも一人の船長が左へ進めと云ふ、そうしたならば部下の者はどつちへ進んでいゝか迷つて仕舞ふ、其内には暗礁にても乗り上げてブツ／＼沈没して仕舞ふ。又、諸君の中で

### 第十七は 此三つの訓は互に助け合へよ

#### 第一は 神ながらの訓

是れは天照大神が皇孫瓊杵尊に授け賜はつてから代々の天皇相承傳し給ふ所の三種の神器と云ふものである。即ち

八咫鏡、八坂瓊杵玉、叢雲劍の三つの寶物の事を云ふので、鏡の如く清く玉の如く丸く又氣高く劍の如く鋭くして勇ましかれと御訓へ置かれたものである。我我日本國民が安泰幸福なる生活を送る事が出来るのは一に 皇室の御恩徳に依るのであるから我々國民たる者は此の御恩を忘れてはならない。三代十思の君と云ふ事があるが我が國民は百代千代の君の御恩徳を蒙つて居るので、此の神ながらの訓は大和の道、秋津島根の訓なのである。それから

#### 第二は 儒教

親に孝行をせよ、人は仁義を以て交はれといふ主意を説かれたものである。仁は上の者が下の者に對するめ

も同じ所に組長が二人居るとして一人が働くと云へば一人が休めと云ふ。其部下の人はどうしてよいか迷つて仕舞つて仕事が出来ない。どうしても本當に上に立つ者は一人でなければならぬ。そこで聖徳太子の憲法にも君は唯一人と斯う云はれて居る。其次の

### 第十二は 共同一致協力して事に當らなければいけない

何事でも人は互に助け合つてやらなければ大事業は成し遂げられるものでない強い團結心が必要である。世間には獨立獨歩だなど云つて威張つて居る人があつて己れは何から何まで獨立獨歩だと云へるものでない。世の中は互に助け合つて行かなければいけない。情は人の爲めならずと云ふ事もある。その次は

### 第十三は 物事を妬んではいけない

人は兎角他人の盛んなのを見ると羨ましくなつて妬み根性を起すものであるがそれは宜しくない、君等の中でも仲間の者が仕事をよくやつたと云つて彼奴は怪しからんなどと他人の手柄や幸福などを妬むものがあれば其れは間違つてゐる。

#### 第三は 佛教である

人は何時不幸に遇はぬとも限らぬ。佛教を信じて居れば不幸な目に遇つても堅い信念があるから無暗に歎き悲むやうな事は無い。そして佛教を信じて居れば常に人生の圓滿を期する事が出来る。

此三つの訓、即ち、神ながらの訓、儒教、佛教の三つは互に助け合つて行かなければならぬ、一つ缺けても満足な物とはならぬ。必らず三つとも相俟つて行かねばならぬものである。と斯う聖徳太子は説かれてゐる。

今迄述べ來つたのが聖徳太子の憲法十箇條と云ふもので、どうか諸君も此憲法を守つて貰ひたい。今日は此憲法の話をしてお仕舞ひにする。

○拙作 鼓城山人

夏天綠樹蔽炎空 滿室清涼不是風  
一卷南華一窓夢 忘來三代臥林中

# 日蓮聖人教義綱要 (第廿五回)

井村日成

## 第八章 修行

### 第一節 修行の要旨(つゞき)

次に本門の流通分に於ては、前に申上た四信五品の外にお示に相成つた處を擧げて見ると、法師功德品には法師品と同じく受持、讀、誦、解、書寫の五種の修行を以つて六根清淨の功德を得ることを明されてある、此の常不輕品には、常不輕菩薩の因縁を擧げて其修行の有様をお示に相成つた、本品に

是比丘、凡そ見る處ある、若は比丘比丘尼優婆塞優婆夷を皆悉く禮拜讚歎して、是の言を作さく、我深く汝等を敬ふ敢て輕慢せず、所はは何ん、汝等皆菩薩の道を行じて、當に作佛することを得べし。

是比丘專ら經典を讀誦せずして但禮拜を行すとある、此御文は日蓮聖人が專ら題目修行をお奨めに成る依文とせられたので、此廿四字(讀文)と題目の五字とは同じ意味であると申され

本門の本尊妙法蓮華經の五字を以て開淨提に廣宣流布せしめん歟例せば威音王佛の像法の時不輕菩薩我深敬等の二十四字を以て彼土に廣宣流布し一國の杖木等の大難を招しが如し彼廿四字と此五字と其語殊なりと雖ども其意之れ同じ

此は顯佛未來配の御文であるが、又聖人の一期の弘教は不輕菩薩に相繼すと申されて、其範を不輕菩薩の折伏逆化に取られてあることは祖文中處々に述べられてある處であるが「聖人知三世妙法」には

日蓮は是法華經の行者なり、不輕の跡を相繼するが故に

と仰せられた、此不輕品と日蓮聖人とは殊に深き因縁あることを聖人自ら

過去の不輕品は今の勸持品、今の勸持品は未來の不輕品たるべし、其時は日蓮は即ち不輕菩薩たるべし

と述られて、此品の行化は未法法華經の行者の修行の模範として最も深大の意義を有するものなることを明かにせられてあるが、其品の修行の要旨は讀誦解説等の繁鎖なる行法を避けて專

ら禮拜の一行を以てし、此が爲めに杖木瓦石を蒙るも厭はず強て之を毒す、無理矢理に禮拜をした、即ち人を拜み倒すことを以つて修行をした、然し何の意味も無く拜み倒したのでは無い、皆様に立派な佛様である、故に私は禮拜する、佛様が怒張てはいけない、佛様が不品行ではないけない、氣をお付なさいと云ふて拜んだのである、拜まれた人は氣味が悪い様な、くすくすたい様な、氣まりが悪い様な氣がして腹を立てたものも出来たのであるが、人を教ゆるに立ても馬鹿だと云ふよりもお前は偉い人だからお前は勉強しなさいと云ふ方が本當に進歩すると云ふが不輕菩薩の拜んだのは其意味合からである、佛性の開發を促進せんとして廿四字を唱へて拜まれたのである、日蓮聖人のお題目を唱ふるも同じ意味合である。

次の神力品には如來の滅後於て一心に受持讀誦解説書寫して説の如く修行すべしと説き而して「經卷」所住の處には塔を起て、供養すべし」と附加せられてある、此起塔供養の文は我等末法の法華經の行者が有相修行の形式に於て本門の本尊を安置して此を信仰の對照と爲すべきを點示せられたので、本門の戒壇建立の理想も此文に基いて居るのである、此點をお示に相成つたのは他の品に異なる處である。

次の勸助品は總付屬の文にして迹化の菩薩の爲めに像法適時の弘經の方法を示して

未來世に於て若善男子善女人有て如來の智慧

を信ぜん者には當に爲めに此法華經を演説して聞かせしむることを得べし

と、此は法華經を演説して化導すべきを示されたと、萬一法華經を信ぜざるものあらば、權經に依つて導くべきを教へて

若衆生あつて信受せざらん者には如來の餘の深法の中に於て示教利喜すべし

と仰せられて權實双用以偏助圓の化導を許されである、此は不輕品の而強毒之の但令用實の化導とは其趣を異にするが、此は時節を異にするより化導の方法も異なつて居るのである、此迹化本化、像法末法の弘通の異目ある所以である。

次の藥王菩薩本事品には、藥王菩薩の過去の修行の有様が説いてあるが、それは此品に

我神力を以て佛を供養すと雖ども、身を以て供養せんには如かず

(縮法四〇五)

神力に依つて佛に種々の資を供養したが、其よりも自分の身體を佛に供養する方が勝れて居ると考へて、自分の身體を燃して佛に捧げた、此に對して日月淨明德佛は

善男子是を第一の施と名づく、諸の施の中に於て最尊最上なり

(縮法四〇六)

と説教せられた、此は身體を捧ぐる事が布施の中の第一なりと仰せられたので、此事から起つた事と思ふが地方に依つては信者が手纏を燃やす事杯が傳へられて居る處もある。

妙音品と普門品には普門示現の活動を説いて

度すべき處に應じて種々の形を現して化導すべきを示し、陀羅尼品には受持者擁護の功德を擧て不可量なりと示して法華經の行者を擁護することの大切なるを説く、妙莊嚴王品には善知識の因縁を擧げて

善知識は大因縁なり、所謂化導して佛を見上り阿耨多羅三藐三菩提の心を起さしむ

と説いて善知識の大功能あるを示せり

以上は法華經迹本二門の流通分に列示せられたる法華經修行の状態であるが、更に結經觀禮佛誦經である、經に

行者見已つて歡喜敬禮して、復更に甚深の經典を讀誦し、遍く十方無量の諸佛を禮し、多寶佛塔及び釋迦牟尼佛を禮し上り、並に普賢諸の大菩薩を禮して是普願を發す

(縮法四八二)

と説く佛を禮拜し大乘甚深の經典を讀誦すること、が、最初の行法である、更に進んでは、六根懺悔の法である。

普賢菩薩行者の爲に六根清淨懺悔の法を説く是の如く懺悔すること一日より三七日に至らん諸佛現前三昧の力の故に、普賢菩薩の説法莊嚴の故に、耳漸々に障外の聲を聞き、眼漸々に障外の事を見、鼻漸々に、障外の香を聞くと説き、又諸佛の前に先の罪を發露し至心に懺悔すべきを説いて、六根の一々に其罪過を發露

懺悔すべきことを詳細に説かれたが、本經と通じて説かれた修行の方法は

「佛誦經」と「六根懺悔」の二であつて、宗教信仰の上には此二は共に必要なる方法である。次に涅槃經には五行が示されてある、五行とは

聖行、善行、正行、戒行、定行

を云ふ

天行、第一義天即ち天然の眞理に對して眞智を求め、業の障蔽を除却するなり

梵行、淨心に住し、慈悲を起して衆生を濟度するを云ふ

聖行、人天衆に對して慈悲の心を以て彼等に示同して小善を實行しつゝ和光同塵して他を指導するを云ふ

平等行、平等心を以つて煩惱ありと示し、罪惡の衆生を救ふなり

病行、惡の衆生を救ふなり

以上の五行は前の二行は上求菩提であり餘の三行は下化衆生である、善行行を以つて佛法修行の要路とせられたのである、又同經四依品には

善男子、乘に於て緩なる者は乃ち名て緩と爲す、戒に於て緩なる者は名て緩と爲さず、菩薩摩訶薩此大乘に於て心に懈慢せざれば、是を戒を奉ずると名け、正法を護ると爲す、大乘の水を以て自ら沐浴す、是故に菩薩破戒を現すと雖ども名て緩と爲さず

又金剛身品には

能く護持正法の因縁を以つての故に是金剛身を成就することを得たり  
護持正法の大善根は佛身を成就するの大因縁なりと説けるものなり

以上列記せる諸文は皆法華經修行の一面を擧げたるものであつて、種々に異りたる方法もある様に見ゆるのであるが、此中に一貫したる理路あるを得得せんければならぬのである、一邊に執して他を排するが如きことがあつては、其意を得ることは出来ぬのである、此點に就ては、日蓮聖人は最も明白に誤解のない様にお示に相成つて居る、日妙抄に

正法を修して佛に成る行は時に由るべし、日本國に紙なくば皮をはぐべし、日本國に法華經なくと知れる鬼神一人出来せば身を投ぐべし、日本國に油なくば膏を燃すべし、厚き紙國に充滿せば皮をはいでなにかせん

(遺八六三)

又法華抄に  
抑法華經を持つと申すは、經は一なれども持つ事は時に隨つて色々なるべし、或は身肉を裂て師に來養し佛となる時もあり、又身を床として師を供養し、又身を薪と爲し又此經の爲に杖木を蒙り、又精進し、又持戒し、上の如くすれども佛にならざる時もあり、故に時に依て不定なるべし、されば天台大師は時に適ふのみと書かれ、華安大師は取捨宜を得て一向にすべからず等云々、問ふて曰く何

なる時か身肉を供養し何なる時か戒を持つべき、答へて曰く智者と申すは此の如き時を知つて法華經を弘通するが第一の秘事なり

(遺一六六)

法華經の修行と云ふは必しも一定不變のもではない、縱令昔昔を燃き皮を裂て佛に成つたものがあつても、現在そんな事を爲しても何の益にも立たない事がある、昔の人がこんな事をしたから我もその通りすると云ふ様な事ではない、前來列記した修行の方法は所謂其時の必要に應じて適當の方法を取つて行ふた實例を擧げたのであるから、其方法を活用して現代に適當なる施設を爲さんければならぬ、一例を擧げれば書寫の行の如き古來佛法修行の中の一方法であるが、元來書寫行を獎勵した意味は昔時法華經の術も無く凡て書寫に依らねばならぬ、教法も後代に傳ふるには書寫の盛に行はるゝことが最も必要であるから此を大功德として獎勵した、然るに今日では印刷術が發達して廣く多く傳播するには印刷に依るを最も捷徑とする、然るに相變らず書寫行を行すせば愚の至であらう、此が時に依つて違ふと云ふのである、昔は必要であつたが、今日では必要でない、昔は書寫行で佛に成つても今日では成れぬと云ふ事に爲るのである、要するに佛法修行の要旨は時に應じ必要に應じて活用せられて行く處に存するものであつて決して固定的のものではない、然らば何う云ふ活用するかと云ふならば、其終

### 施本用に

「統一」の古いのが澤山あります。  
施本として御用を希望します。  
代價は數に依つて多く割引させていただきます。

# 愛國と世界

永橋榮治

記者曰く、本論は戦争後の白人の狡猾なる野心より脱き出し、日本人の弱點を指摘し、獨逸性の特性を述べ、而して大日本の國體性を論じて皇統の尊嚴を高調し、日本國民の天享的幸福を論断して烈々たる愛國の赤誠を披瀝し、最後我國勢の發揚に於て世界の眞の人類同仁の理想を皇、張し、進んで是れ日蓮聖人の達識道破の既定なりとして日蓮主義者の勇猛精進を熱諭せるもの也。一讀正氣の血の湧くを覺ゆ。

斯文の如き六號活字に植ふるは記者の本意にあらざれども、限りある紙面は却つて内實の容量を充増する上に意味ありとして、寛恕を請ふ次第也。

皇紀二五七八年十一月十二日は有史以來未曾有の大戦が遂に休戦條約と終を告げた日である。其時は交戦國否地上の人類生物、無生物までが清えゆく砲煙の下から最早や戦闘の喧嘩もこれまでと奮躍したのである。日本などは此休戦祝賀のお祭騒ぎが遲いとか不足だとかと外字新聞に非難されたのを以ても知れる。されば休戦は必ずしも平和を意味しないし、講和は必ずしも幸福を齎らさない。ベルサイユ宮殿裡鏡の間に集した三十有餘の交戦國代表者の聯合が半年を廻しても未だ纏まらず、オランダ氏の聯合が際いなりしたのは講和委員各自の心算が鏡の如く清らかてなかつた一の説左ではあるまいか。日に正義人道を掲唱しながら一錢の償金でも一寸の土地でも吾一勝手に餘計に取らうと云ふのが該會議に於ける努力ではなかつたか。人種平等案を提議した日本が忽ちにして五

大國會議から除外されてしまつたのも不思議はない。論争は喧争を生み波瀾は怒濤を起して兎も角も本年六月廿八日に平和條約は調印せられた。然しその吉報を耳にした許りの吾人は支那調印拒絶の號外を手きせられたのである。

世界は今所謂平和状態に入つて太刀は箱に可は蓋に收められたのである。然し金銀棒で撲ぐるやうな戦争の終熄を祝つてゐる萬國旗の裝飾の蔭から早や或種の首を締めるやうな競争が覗いてゐた。國際聯盟を擁立し軍國主義の打破を香功とばかり誇願のウイロンは唯軍國主義の軍の字を金の字に懸へた許りではないか。大戦中無盡蔵に米國に流れ込む黄金の塊は一朝講和の企圖と共に莫大なる資本として世界の生産事業に投ぜられ、將に國際市場の覇者、地上の

金王とならむと米人の狼臂は貧小の島帝國が唯一の資源と頼む支那、シベリアまでも伸び來つて、早やその掌中に握られん勢である。更に吾人は過日朝鮮の動亂の黒幕裡には某國宣教師の煽動盛なりしと聞けば思ふに過ぎざるであらう。斯く眞理の如く狡猾にして虎狼の如く無法なる釣魚の徳報が寄つて調印した平和條約や國際聯盟を人類永遠の幸福を保證すべき金科玉條と鼓腹する者あらばそれは白痴の類である。

講和會議に於ける軍備縮少の提案は春の夜の夢と許りに破られてしまひ、精銳なる英米は着々海軍の擴張を行ひ、米國及歐洲の移民制限令は愈々峻嚴を加へた。有色人種は白種民族に對しては人道も平等も要求されなくなつた。而して地球上の各國國民は凡て相視み相視み相視みとして十字巴となつて毒牙を磨いてゐると云ふ。若し然らば海航艇より且も遠くも更に一、厭ふべく怖るべき暗潮裡修羅の巻と世界が化した譯である。此間に處して我大日本帝國は如何に同胞の擁護を失ひ列國の同情理解更になき島國民にして依然安閑として桃源の夢を見てゐるは二千六百年の光榮ある歴史も或は一頁を津夷の血によつて汚されないと知れない。東洋平和の大本、黄色人種唯一の總督たる日支親善も屢々巧みな白人の糸に操つられて變遷すべき持日運動と化し、又國內物價の騰貴、資本と勞働の衝突、國民思想の動搖等にて寧日なき今こそ大和民族の自覺一番すべき秋ではあるまいか。

政黨は徒らに相互自黨の私利より攻撃を能事とし、國民は牛可通のデモクシーに眩惑されて騒動し、ストライキの頻發、奸商の輩出等は畢竟我國危急存亡の秋であることに氣が附かないからである。直ちに私慾を去つて、上下貧富の差別なく全日本國民一人濡れなく大覺醒すべき國難の時である。大臣も經辨も、資本家も勞働者も唯國家の安寧向上と云ふ點に於て協調を見出し得るのである。相互私慾を前提としてある間は騒動は止まず、遂に國家の授恩を醸し、其

果はユダヤ人の如く遂に國を失ふに至るのである。穿き透つた民本主義が漸く國民の間に根を伸ばさむとし、山間の村にまでモククラシの片言を口に流して流れてくる今日盟原の瑞穂國の大和民族の血は何處に流れてゐる今日盟原の瑞穂國の大和民族の血は何處に流れてゐる今日盟原の瑞穂國の大和民族の血は何處に流れてゐる...

獨逸帝國が五年間世界の大半を敵として餘餘々々、戰艦に勝勢をくべきものがあつた偉大な國力の充實は何が然らしめたのであらう。文に秀で武に優れ正に世界に冠たりしは獨逸民族の氣象があらゆる外國の先進の文明を收容し、それを同化して獨逸の本來の精神の肥料としたからである。此事は一度獨逸の辭書を開いて瞭然たる。即ち例へば停車場と云ふ語も、英はStation、佛はGareと云ひ、其他の歐洲諸國も其文明の淵源たる古代羅馬の國語なるラテン語の Station を殆どそのまま借用して済ましてゐるに係らず、獨逸は同じ語源の Station の語の他に新たに同義の字として Bahnhof なる獨逸固有の語の組成によ

斯く名譽ある大任、人類の善導者としての大務を双肩に擔ふべき大和民族たるの光榮と責任とを自覺せば風俗の如く去來する外物に輕率雷同するを止め宜しく自主他從主義を確立すべきである。若し此大任に到達し得ざる同胞ありとせば其の内心に潜在せる祖先傳承の佛心の開發に努めなければならぬ。此の大理想は既に日蓮聖人が昔に遺教してゐられる。國民擧げて聖人の要求せられたるが如き人格を養成し得ば日本國民の手に依つて人類の福根を一掃し世界を地上の極樂に統一する希望も決して妄想ではあるまい。最近伊國の政治家にして同時に熱心なる愛國者 Masani 氏は云つてゐる「國家的義務は國民がやがて滅亡に陥れしむ」と。然り我利我利の愛國はやがて偏狭なる排他國に傾く。愛國心を以て正義人道に據らしめ以て世界改造人類救済の第一歩たらしむるには愛國者自身の内心に蔽せる善根に依る他はない。日蓮主義者先づ選ばれたる者として國家の爲め人類の爲め勇猛

るものを作つてゐるのである。こんな語の例は無數にある。即ち外國から傳來した物は充分に同化吸収するが其を利用して自國本來の物を増長する。これである。實に我事であるが獨逸民族の愛國心の一例として面目顯如たるものではないか。其の自主他從主義の國民精神の建設する國家の勢力は實に偉大なるものである。日本の如く「舶來」と云へば必ず「上等」を意味し、和製品にも外國語のみのペーパーを貼り附けたり、談話にも文章にも外國語を入れたりハイカラ（既に此語が外語の訛である）がたり、日本語よりも外國語の方が堪能だと云ふ人を羨望する者が少くないやうでは日東の君子國も其の芳名を失はなければならぬ。

我國體匹儔なき日本帝國——余は敢て帝國と云ふ（我國の帝國は全然外國のユマイヤールと内容が別種であるから）——にても今更事新しくデモクラシーなど叫ぶ必要があるか否か既に問題である。デモクラシーの語は希臘語のデモス Demos（民衆）と云ふ國民中の或階級の名から由來したことは御承知の通りである。當時希臘は政治的に經濟的に國民に階級別を立て、その人権に差等を設けてゐた。下級のデモスは其の壓迫から逃れむとして民衆階級が政權を掌握せむとして所謂デモクラシーの元祖を揚唱した。古昔は國民に差別をおくことが流行と見えて、其後階級に行はれ印度にはその餘波が未だ一部に認められてゐるらしい。日本の封建時代の士農工商も其類であつたが、明治維新の王政復古以來斯る人権別は廢棄せられ、種多非人も一視同仁の皇恩に浴する平民に入られた。士族と云ひ華族と云ふも國民としての國家の保護に平民と變りはない。従つて現今外國でデモクラシーが流行だからとて今更事新しく之に雷同する必要も理由もない。恰もお伽藪の猿合戦で柿の種子と搦飯と交換するよりも思ふである。今となつて外國は如何にくやしがつても日本のやうな皇政速編、皇室即國民祖の宗と云ふ國體は築かれなから、時々色々流行に隨つて政體の變化をするのである。日本は此比類

新刊雜報

- 日蓮主義初歩 本多日生師著.....
●定價七拾錢送料六錢
●日蓮は聖人也忠臣也 一名日蓮深密傳の解剖 野島草民著 定價壹圓郵送料八錢

- 右二書取次販賣す 但し前金か又は引換に限る。あとから送ると云ふのは取扱上面倒に付絶對にお断り。送金は統一編輯所口座は東京三三五三番
●天台日蓮對照論述法華經要義 清水龍山師著 稀に見る偉著なりとして好評なり。記者未だ讀ず。一見の上は更めて紹介せん
●毒鼓 國柱會にて近々發行されん

なき國體と臣關係を傳統し來つたことを寸時も念頭から離しては最早や外國に優越したる何物をも持たぬことになる。

神武大帝が建國の初めに當つて朕と國民と正義人道の爲めに協力しやうとの聖旨を仰出されて以來、一系百二十有餘代連綿として尙其極を知らぬ 皇室は到底專制にして亡ぶ外國の君主政體とは月體の差がある。陛下の御聖旨は全く御聖文の「萬機公決すべし」即ち徹底せる愛民主義である。御製の和歌を拜讀しても、陛下の愛は實に萬長屋の労働者にまで及んでゐるし、又同時に至大なる世界同胞主義であらせられる。此の事は世界何れの國の元首も遠く及ばないところである。

四方の海みな同胞と思ふ世に など波風の立ち騒ぐらむ。

我國の經綸は凡て憲法の定むる如く、國民各自が選出した代議士によつて議決せられ、聖上之を裁可し給ふのである。上に至仁の明君を戴き、下民衆より出せし爲政者によつて萬機を運轉してゐる以上、此以上の自由幸福も平等政治もあり得ない。歐米のデモクラシーや米國のリパブリカなどを模倣して萬一野人島政治を始めたところで到底二十六世紀間吾人の祖先が享受し來つた日本帝國の國民としての幸福には及びもつかないであらう。然らば國民として日蓮の如き我歴史我國體を永劫に擁護しつゝ吾人は、陛下の赤子として、陛下と共に祖宗以來の君臣分業的の約束即ち正義人道の爲めに振舞ひ給ふ。君の采配に應じて臣として忠良に國家の福利を増進する爲めに勤むのが最上である。而して之を爲すには何の準備も要せず、從來のままに益々奉公すればよいのである。之は日本に於てのみ易々たるのである。

吾人は斯く日本國民に向つて愛國を説

和歌 休み

選者清岡子爵北海道旅行中に付御選を得ず故に本月休み

次回課題「暮村」

Table with 2 columns: Poem text and Author. Includes '無花果' and '一非句欄'.

- 無花果に露降れて芥焼く燈 堀江理溪
●無花果の肌冷たしうまやの灯 同
●無花果の落ちて人なき古庭説 同
●無花果の尻から色づく日和かな 同
●無花果や隣りは女流音楽家 芳子女
●無花果や腹底見よとわけてけり 秋葉春淨
●葉がくれの熱れし無花果むしらるゝ 有田鷹陽
●無花果や数だけ盆に白き玉 永積晚江
●評 玉とあるを露とか印とか變へたらと思つて見たが、矢張り玉といふ方が面白いと思つて



其の學其の文其の徳に  
宇宙の父たる釋尊の  
身は房州の海人の子と  
末法正時上行の  
大難來るその度に  
八宗の教理強めはて  
精讀三度の其の苦心  
正像二時の諸師の論  
市めて悟る釋尊の  
妙法華經の八卷と  
靈山別附眞淨の  
感涙滂沱木佛の  
久遠の佛勅はたさんと  
天地神呪日東に  
法華の神力顯にし  
雄辯叱咤震を呼び  
天下風靡す四格言  
惡世の惡比丘邪智の輩  
罵詈雑言の大苦難  
文應元年敵火の難  
またも降りくる東條の  
天火焰々燃え出でてぬ  
宇宙の眞理法華經の  
王法佛法に冥合し  
正を亂さば國亡ぶ  
隱然攻めぬ鎌倉の  
天皇親政日の本の  
顯現するもありがたや。  
執權赫怒大匠は  
今や極まり日蓮は

世界の誰か優るべき  
外には一もあらざらむ  
さげしみますも心には  
化身は我との確信は  
信念まざるぞかしこしや  
五千餘卷の大藏經  
釋迦一代の聖教と  
批判研鑽血を吐きて  
出世本懷の眞諦は  
靈感信仰共鳴し  
大法秘要覺り獲て  
大聖徳を讃仰し  
獅子奮迅の大勇猛  
嚴然立ちし大日蓮  
降魔の利劍手にもちて  
風を起すの富樓那辯  
堂々出づる恐ろしさ。  
きそひ起りて聖人は  
つぶさに身に讀む勸持品  
伊東の流罪逃れ來て  
小松が原の御法難  
立正安國の大國難  
外に二もなく三もなし  
大難國はこゝに建つ  
天二日なく地二王なし  
幕府の政邪非なるを  
大道こゝに赫然と  
今や極まり日蓮は

文永八年辛未の秋  
鎌倉八道ひきづられ  
死刑の場に端座しぬ  
機審風に飄る  
金吾頼基初めとし  
泣きつゝ唱ふる題目の  
聖人やおら叫ばれぬ  
悲みいかで生ずべき  
此の肉身を法華經の  
佛身直に得るぞかし  
宜ふ聲のかしこさよ。  
七里が濱の白波は  
稻村が崎腰越や  
夜のとばりにつゝまれて  
東の空のうすあかり  
松葉ヶ谷の庵室は  
屋方の光景ぞおもほゆる  
習々として淋しげに  
地獄の如き刑場に  
心靜かに法華經を  
刻は來りぬ太刀取の  
ぬき放ちける一燈那  
忽然變ずる大奇蹟  
迅雷烈風空暗濤  
江之島よりぞ飛び來る  
光芒徳丈音百雷  
幾百の武士失心し  
三つに折れて目はくらみ  
神色自若日蓮の

柵欄枷鎖に繋がれて  
名も恐ろしや龍の口  
管籥の武士はいかめしく  
竹園の外にみ弟子たち  
數多の信者さめざめと  
悲痛の聲を聴き玉ひ  
かほどの歡喜笑えがし  
いま日蓮はなまなくさき  
ために捧げて金光の  
喜べ欣べ笑へよと  
音もしづかになきわたり  
遠近の山刻々に  
漠然模様のその中に  
鎌倉町の反映ならん  
今はたいかに時宗の  
こゝ江の島の松風は  
火把 篝火陰に牙え  
佛の如く日蓮は  
語してぞ時をまち玉ふ。  
役は雄々しく蛇脚丸  
寂寥たりし天地も  
海鏡々と鳴りひびき  
白雨沛然すさまじく  
明燭々の光りもの  
龍の口をばすきてゆく  
振かざしたるかの太刀も  
耳は聳して切るをえず  
尊き姿いや崇し

○大號課題  
△湯婆(たんぼ、即ちユタンボの事です)  
△枯 蓮  
○感 興  
●月次句集「上越中島本永寺にて」  
秋。稻。露。蛸  
○入 選  
綱や夕日抱へて松ヶ枝に  
照りのして夜雨ありけり稻の花  
夜や静か物の音なき露の宿  
草の戸や今朝見る露の新らしき  
草薙の袖ぬらしけり今朝の露  
通り行人付むや稻の出来  
雨毎に種太り鬼稻の出来  
綱や屋もこぐらき神の巻  
○住 訓  
綱や薄月かゝる野中松  
坪入してある稻の種ふりかな  
掛稻や那代横の屋敷跡  
綱や祭消へしころ月の出る  
稻木して尋ねる人や廻り道

鎌倉殿中大地震  
殺さば北條全滅と  
流石無敵の時宗も  
早馬にてぞ遣はせる  
あな恐ろしき極みなり。  
忽然天黒雨濤々。  
妖火哭飛刀寸斷。  
嗚呼此の奇蹟この奇蹟  
崇拝長敷いやしげし  
名聲赫々日の本に  
再來ぞとの大確信  
心身解脱の大歡喜  
如來の加護のたまものぞ。  
依智の里には月を攻め  
越路の海の荒浪も  
佐渡が島根の白霧も  
ついで日蓮を殺しえず  
塔寺遠隔の勸持品  
二難の豫言も適中し  
全島降伏す大神通  
此の秀麗の鳥影に  
文永十一甲戌の歳  
貶謫赦免の春來り  
歸り玉ふぞ芽出度けり。  
佛降臨の靈日に  
鎌倉殿中大獅子吼  
不敵の強言おそろしや  
用るざるをば慨嘆し  
断崖山に入り玉ふ

空中空あり聖人を  
きこゆる聲もものすこし  
驚駭のはて免し文  
神變不思議の大奇蹟  
雷電烈風普海中。  
日蓮威聖有誰攻。  
四海萬民懼怖威服  
妖僧こゝに神僧と  
聖人も亦た上行の  
いよゝゝ此の時定りぬ  
これ妙法の賜ぞ。  
明星を下して問答し  
神力顯はし渡りゆき  
三昧堂の配論も  
數々撰出の大備文  
色讀終えし大聖人  
法蓮愈々榮えきて  
末法萬年の大本尊  
現はれ出でしありがたき  
聖人喜運開き初め  
喜び男み鎌倉に  
踏踏ひれ伏すその中に  
蒙古の襲來今年ぞと  
非禮を駭け三諫を  
末來の教化果さんと  
紫雲欄引く身懸山

下界の紅塵輝説し  
靜養九年聖人の  
天人諸佛來集し  
本に上行の大使命  
大聖人の救世の文  
廣宣流布の佛説も  
弘安四年元寇の  
おしよせ來り日の本も  
二十年來日蓮が  
安國論はこゝなるぞ  
あな恐ろしや亡國の  
成吉思汗の昔より  
今の佛蘭西露西亞獨逸  
宋の天下も亡ぼして  
元の大家相となし  
山なす日本と噴進し  
離れ小島とあなどりて  
かねて日蓮大聖の  
いかに恐怖やいだきけん  
大慈悲心を敷し玉ひ  
日蓮こゝにあるからは  
ひがめる西戎小蒙古  
心を安じ防げよと  
身懸山より出し玉ふ  
感奮したる時宗は  
禮を厚うし國難の  
赤誠こめてぞたのみける  
いと喜び給ひつゝ  
報ずる時は此の時と

不二の靈山仰ぎつゝ  
樂國淨土開顯す  
天下の四民參拜す  
茲に成就す嬉しさよ  
こゝより輝ひぬ四海へと  
虚しからざる尊さよ。  
雲霞の大軍西海に  
果勇の危懼迫りきぬ  
命をかけて呼びつる  
邪法の呵責まのあたり  
姿はこゝに顯はれぬ  
歐亞の今土蹂躪し  
中央亞細亞も席巻し  
伊大利の偉人マルコポーロ  
英王忽必烈黄金の  
世界を駆けし武力もて  
疾風のごとく襲ひきぬ。  
豫言をきゝし國民は  
大聖人は鳥猛の  
此の國難を救はんと  
我が帝國は磐石ぞ  
大日本に敵せんや  
鼓舞奨励の金文を  
大聖人の神力に  
股肱の臣を遣して  
不定祈願を聖人に  
大聖人たる日蓮は  
海より深き國恩を  
多年あだせし時宗も

草の葉も染められんとす秋日設  
秋風や心奪むげな灯の搖ぎ  
錦着た蒲團重たし秋の山  
人  
廣々と野は明けけり草の露  
地  
葉から葉へ移りて露の太りけり  
天  
綱や宿引のる松並木  
露はろり受もかねたり視水  
鼓 城  
樹 竹  
友 交  
一 品  
正 齋  
妙 風  
新 友  
草 風  
樹 竹  
春 淨  
友 交  
秋 月

三 彩  
草の葉も染められんとす秋日設  
秋風や心奪むげな灯の搖ぎ  
錦着た蒲團重たし秋の山  
人  
廣々と野は明けけり草の露  
地  
葉から葉へ移りて露の太りけり  
天  
綱や宿引のる松並木  
露はろり受もかねたり視水  
鼓 城  
樹 竹  
友 交  
一 品  
正 齋  
妙 風  
新 友  
草 風  
樹 竹  
春 淨  
友 交  
秋 月

●濱野泰師廟ノ上棟式祝賀句  
豫て營繕中なりし濱野の名刹本行寺の泰師廟も  
其後工事大に進み去る二十六日其上棟式を舉行せ  
り、大工等々の木道の聲折樹の金風に和して盛大  
なりき  
因に來賓の各上人方により左の祝賀句ありたり  
棟あげや我此土安穩稻の波  
棟あげや木道の聲に秋晴るゝ  
秋晴れて御法かゞやく大伽藍 七十七才  
棟あげの葺りは高し秋の空  
棟あげや木道に晴れる秋の空  
あらとうと秋晴れる日上様式  
真 砂  
北 堂  
同 海  
同 龍  
北 塔





思想問題と國民教化 本多 親下
△觀下は九月一日午前三時三十分(夜行)中山所長、西副所長、出津新與寺住職、大平田天晴會幹事、等と大平田君に別れ、久留米驛に平岡、野口、小泉、松井久毎新聞社長、及び中原きく、諸氏の奉送を受け、路路へ向はせらる。終りに九州各地の講演會につき觀下の行を感ならしめたる知法思願の諸氏に對し深く感謝の意を表す。

統一閣 (八月)

日曜定期講演會

▲三日(夜)晴 聽衆二百餘名。起て日蓮主義者を褒直繼。曼陀羅本尊の文明を野口日主。▲九日晴 聽衆二百餘名。現代と二つの我を秋山乾英。無常と常住觀を森川日修。▲十七日小雨 聽衆百五拾名。祝誠度後を妹尾義郎。正義と慈悲を小林一郎。▲二十四日晴 聽衆二百五拾名。日蓮主義所感を窪田貞二。日蓮聖人の樂天生運を關田日城。▲三十一日、聽衆二百餘。死を木村義明。興國の要旨を征川日堂。以上上の諸氏にて孰れも熱心に口演せられたり。

青年會法華經講義例會

▲二日、九日、十六日、三十一日、同會を催す

統一閣附屬諸會

▲房州布教 十二日より十五日まで北條、館山、那古、等にて野澤少將、小林智道、妹尾義郎の諸氏布教さる。

▲本郷正道會 十三日、小笠原丁、野口日生の二先生出演。

▲夜講例會 十五日、日本橋區久保田氏宅にて野澤少將。▲十八日神田三崎町中澤平五郎氏宅、高木木順。征川日堂二師出演。▲二十日日本所松阪町小松崎一郎氏宅。妹尾義郎、高木木順二氏出演。▲二十七日、小石川篤徳町後藤龜五郎氏宅、長谷川義一、木村日保の先生出演。

二師出演。▲二十八日小石川篤徳町日比野妙鏡子刀自宅にて野口日主師等なりき。
○統一閣少年會義納芳名
金五圓也 福岡 深 澤 孝殿
金壹圓也 下谷 福 政 吉殿
金五圓也 淺草 安 江 清 海殿

三本尊の奉養其他 大橋 日熨

我等が千葉縣に於て最も喫緊事とせざる可らざるは檀家の本尊奉養なりとす。檀家の中には代々本尊の授與を受け、之を尊敬するの餘りか徒らに箱入となして秘藏し、却つて寶檀にかまげ奉らぬ者あり。之等には寶檀を奉養して御本尊をかまげしめざるべからず。之れ等の事よりして新に勸請せしめたる拾六月は説辨と共に更に清新なる信仰の把住を興へたるを感ぜり。而して信徒の多くが所有せる本尊中、日合上人以後のもの正式なるは稀れし。茲の輪奐鬼は風流の收入豊くべきものあり。三千本以上ある尊ありとは流石は千葉縣なりと思ひぬ。布教期は九、十、十一、十二の四ヶ月を以て最好とす。されば十月より講演に専注せんと豫定し居れり(以下略)

西の宮の新開教

神戸鎮本布教所内に日蓮主義青年會を開設せられたり。毎土曜の集會日に、遠き西の宮より參會するもの數名あり、加ふるに會て統一閣の講義會々員たりし三崎唐氏の同地職務署長として赴任せられてより日蓮主義研究會を組織せらるゝあり、彼此相待ちて日蓮主義運動の機軸を熱せんとする折衝、本多大正正親下の大股本化聖教團發會講演會に御賓臨の爲來阪せらるゝを聞き、熊井本光師を通じて願書の許を得、同志の悦び一方ならず、仍ち同地の日蓮門下各教團有志者合同主催の下に、三日午後一時より武庫郡公會堂に於て

教學財團基金申込報告

(大正八年六月三十日申込)

Table with 2 columns: Amount (e.g., 金百五拾五圓也) and Name (e.g., 千葉縣津郡金田村中島 本水寺住職 秋葉 純一)

「東洋文明の權威と日蓮主義」なる題下に、其の雄大な名部長町長御影師範學校長を始めとして恰も同公會堂に開館中、教育講習會出席の武庫郡小學校教員及び有志全部及び青年會員在郷軍人會員等、殆んど知識階級を網羅し未嘗の盛況を呈せり。
●鳥取教報 朝倉布教師進化後山陰の教界兎角不報の傾ありしが、明石より移住したる強信徒中島孝治氏等によりて復活し、不絶教誌を張りしが、先月には管長親下を招聘して特別大講演を開き、今則又明石の布教師川崎英照師を招き夏期講演會を八月十六日鳥取市法泉寺に開き盛況たりき。

開會の辭 中島 孝治 安心立命 林 慶 順 大なる哉日蓮主義 川崎 英 照 十七日夜は幹部の茶話會あり。

●界教報 八月廿一日午後八時より明妙滿寺に護正會例會を催し、開會の辭を中村恒次。論讀鬼と吾人を古谷幹夫。金剛定の山に登らん川崎英照の三氏にて講演す。尙來月より更に研究會を催し川崎師の法華經講義ありと。

●中島通信 千葉縣中島本水寺秋葉純一師は、凡そ海濱の漁民には徹底したる信仰はなきも、しかし神佛の感應偉靈は幾で願裡に秘み居ることなれば、漸次純信に誘導すること敢て難しとのみ云ふべからずとして種々の方面より誘引教化の方法を講ぜられ既に教化効果の端緒を開き、吾宗の機關雜誌一の讀者も二十名を出したるは實し將來純善信仰家を醸出するの兆なるべし。師は八月七日同寺に於て「立教開宗の本義」を、十二日は「立正安國論と最明寺時類」を、廿七日は現代思想に適應すべき宗教を論ぜられしと云ふ。

●木村勉師の消息 四月統合宗學林を出て、何事か爲法盡す處あらんと期待したりし靜岡縣の同氏は、果然、八月六日以來、同末日に至るまで民力滲透の爲に七回の講演を試みられたり。第一回は大土肥青年會主催にて妙高寺に梅原惠一、渡邊仙之助氏と共に



閑庭草花

子爵 清岡長言選

○天 千葉縣東金町 小川 藏司 七草の花よりほかの花もまきて しつけき庭は秋さかりなり

○地 山崎 松尾 清明 しつかなる庭の飛石音するは 千草の花に人やとふらし

○人 靜岡縣 佐原 弘 風 いたつらに折る子らもなき庭の面に ころやすしとさける八千草

○入 選 序列なし 秋來れば千草の花の咲いて、まきひしき庭に色を添へける 福岡 熊澤 徳子



二十日は仁田青年會の爲に長島勳、遠藤武氏と共に、二十一日は平井青年會の爲に杉崎一輝、遠藤氏等と共に以後、畑毛、上澤、拍谷、日守、何れも青年會主催の講演に出演し、志田、鈴木、松下、露木、西川の諸氏と共に講演せしと。

美作通信

▲弘通所法話會例月の如く二と七の日にして修法の後能仁一十師の説教。▲五國法會法要並に説教七月十六日午後二時より本蓮寺に於て午後七時より布教所に於て修行、何れも能仁一十師の雲爾盆に關する法話ありたり。通俗講演會八月十六日午前八時より若田郡野村校に於て青年團總會能仁一十師は「國力は一人の力」と題する講話ありたり。

▲北都金澤教況 八月十六日には能美郡根上村本成寺に於て信爲道源同二十二日始飯町本長寺に於て唱題鈔の一節に就て何れも蓮田純樂師の講演同二十八日には本行寺に於て石橋會章師の八山に就ての講演等多大の法益に浴し歡喜充滿せるを見受たり。

▲玄妙會 東京顯本寺院で組織して居る玄妙會は八月廿日玉川に清遊し日勝庵に休憩したり日勝庵は日蓮宗中里日勝師の開基なり。中里師は食量問題研究として難飲論者にして有名なる人なり、一行は之等も一個の問題となして水に足を洗ひつゝ法悅中に清興を盡し、何處子青村等寄書をなし、午後三時頃解散せり、一行の幹旋は専ら大森氏の盡力たり、本誌記者も之に連るを得たり。

▲清明會 毎週土曜日午後七時より統一閣に於て本多師の大藏經要解あり。又毎週午後七時より神田區西小川町日本弘道會館にて服部博士論語孟子の講義あり、何れも會費毎月壹圓也。委細は芝琴平可二番地清明會事務所へ問合されし。

▲京都通信 八月一日、本山國壽會、説教を三好信道。同夜明德學園にて臨終の心得を同人。▲五日、明德學園にて今井乾草、藤啓純、三好の三人。▲八日成就院婦人會にて衛生と佛教を有田宏道。▲十九日本山蓋蘭會、説教を萩原日道。▲廿一日同、本正寺。廿四日同寂光寺にて何れも同人。

○人とはぬ昔の庵も秋は来て庭の八千草花咲きに  
 ○世の中を餘所になしつる我庭に秋やとくけん八  
 ○千草のさきとぶひともなしかくれかのには千草  
 ○秋ふけてとぶひともなしかくれかのには千草  
 ○さのさかりなれともしつけきわ丹庭に咲きたれ  
 ○ふる雨のおともしつけきわ丹庭に咲きたれ  
 ○八千草の花に千草百草咲にけりしつけきと  
 ○とりにくもわかなむ庵の庭もせにききそみた  
 ○いふせくもわかなむ庵の庭もせにききそみた  
 ○れ八千草の花に千草百草咲にけりしつけきと  
 ○七草の花に千草百草咲にけりしつけきと  
 ○しつかなる庵の草花なかもつ子のかへりを  
 ○待つそわひしきるのまににおもしるく静け  
 ○おひしけりしきるのまににおもしるく静け  
 ○にさける八千草の庵のそてかきさきみなれた  
 ○つくるは八千草の庵のそてかきさきみなれた  
 ○名も知れぬ草たに花の咲そへてさきみなれた  
 ○おのみにて千草の花は句へと木所ひ來るもの  
 ○のみにて千草の花は句へと木所ひ來るもの  
 ○しら露のおきそめしより山にの庭にの露も  
 ○秋くれと人もとひこぬ我庵にさく百草やしつ  
 ○かふるはなとひこぬ我庵にさく百草やしつ  
 ○鳴蟲のほかにこゑなき我庵の千草の露に  
 ○とれるはなとひこぬ我庵の千草の露に  
 ○ひかりの千草百草花さきてしつけき立川も  
 ○世をらしとのかれ入りにしかくれ家の庭にも  
 ○さの花はさききりしに小夜更てにほふもゆかし  
 ○露の音もたえて静けき庵の面に名さへも知らぬ  
 ○草の花さく千草の花をたつねく大坂長尾猶の助  
 ○わかぬ千草の花をたつねく大坂長尾猶の助  
 ○大君の蕙の露に色そへて静けき庵の草花の咲  
 ○人訪はぬ庵にも秋を告げ顔に千草の花は今さか  
 ○りなりしつけき庵の八千草は色とりと  
 ○露にけりしつけき庵の八千草は色とりと  
 ○わが庵は都はなれて人とはぬ庵に千草の咲き  
 ○たれはぬ淋しき庵に色ふか  
 ○千草の花

○疾きそめし千草の花の白露に風もそよかぬ庵の  
 ○静けさみたれけりしつけき庵の八千草は心のまにきき  
 ○秋ふけてしつけき庵の八千草は心のまにきき  
 ○よもすから露をふくみて庭草の今朝は露色ま  
 ○さりけりしつけき庵の八千草は心のまにきき  
 ○世のうきをとほくはなれしわかぬ庵の千草の花を  
 ○今さかりなる

大塚 村  
 課選「暮」

○勿驚天下無二と靈顯藥は之れ也  
 見よ(松鶴)僅かに滿三ヶ年間に數  
 多難眼病者は勿論△不治三十一年間  
 の盲目者(橋本竹次郎六〇)  
 三十年間盲目者(吳長存三二六)  
 を始として壹百貳名の盲目を開眼せ  
 しめたる此の大靈藥の實力之れ發明  
 せる本舖松鶴天龍が無限の名譽光榮  
 なり

天下無二 松鶴目藥  
 無比 松鶴目藥  
 主治 ○トラホーム ○眼内面三顆粒  
 ○流行目 ○起珠 ○血目 ○爛目  
 ○熱目 ○打目 ○其外 ○火傷 ○凍傷  
 ○蟲毒 ○切傷 ○腫物 ○一切

定價貳拾錢

小石川區春日町十六番地  
 取次所 芹 田

謹ンデ卑見ヲ迷ベ御教指ヲ仰ギ奉ル

今ヤ我聖祖大聖人ノ御道徳ヲ追慕スル者天下ニ洽ネク或ハ信  
 シ或ハ研究シ大ハ邦家ヲ想ヒ小ハ一身一家ノ壯社ヲ祈ル是ハ一  
 ニ聖祖ノ御加被力ニ據ルト云ヘトモ他方高德ノ先聖先師并ニ  
 當代ノ先覺者ニ埃ツモノ多大ナリ

然ルニ聖祖御尊奉ノ法華經ノ眞髓タル三大秘法事ノ一念三千  
 ノ大法門中大戒壇建立ノ儀ハ曩ニ時ヲ待ツベキノミト仰セラ  
 レシナリ然ルニ方今世界ノ趨勢我邦四圍ノ形勢ヲ察スルニ正  
 シク其時ナリト思考ス夫レ各寺各家ニ本尊ヲ奉安シアルモ奉  
 持者ノ衷心一片ノ赤誠ナクンバ些ノ功德アルベカラズ國ニ大  
 本尊マシマスモ三大秘法ノ實現ニ留意セザルモノニ於テヤヤ  
 如何ニ豈ヤ一宗一派ノ安穩ヲノミ祈ル者ニ於テヤヤサレバ聖  
 祖ハ已ニ七百年以前ニ我邦ニ大戒壇ヲ設立シ世界ノ帝王并  
 ニ梵釋等モ踞ミ玉フベキ大靈國タラシメント宣言セラレシナ  
 リ國ニ題目ノ聲充滿シ盲信迷信ノ徒如何ニ増加ストモ眞ノ根  
 本義顯ハレ大戒壇建立セラレサレバ百害アリテ一利ナシ方今  
 物質文明益々昌ンニ危險惡平等ノ思想恐瀾ノ如ク岸ヲ打チ風  
 水火兵病ノ國難交モ起ル是レ正シク百害ニアラズシテ何ゾヤ  
 徒ラニ表面的ノ國土安穩後生善所ヲ祈レバトテ善神國ヲ去リ  
 守護ノ佛天寂光ニ歸リ玉フ何ゾ國家安穩ナランヤ

世界ノ平和ハ復活セリト云フナカレ偽善詐誦今ヤ漸ク鍍金ハ  
 剝落セントシツ、アリ我大日本帝國ノ地位ハ古今ニ絶シタル  
 大危機ニ際セリ列強嫉視ノ標的トナリ第二ノ獨逸トシテ目セ  
 ラル、時既ニ至ラントス誰カ一片ノ忠誠アル者奮起セザラン  
 ヤ

今正シク是レ其時ナリ三大秘法事ノ大戒壇建立ヲ事實ニ現ハ

スベキ好機此時ヲ措キテ何ノ時ヲ求ムベキヤ  
 而モ現時ノ狀態ハ表面大徳先覺ト推舉セラル、師多ト云ヘル  
 徒ラニ世俗ヲ迎向シテ赤誠ナク宗教界ノ權威ト自稱スル諸難  
 誌多シト云ヘル未ダ一言ノ聞クベキ反響ナク只自家自宗ヲ護  
 持スルノミ

嗚呼國ノ亡ブル近キニアリ 聖祖ノ所謂一大事ノ來襲布内ニ  
 迫レリ若シ衆心ノ執着ヲ離サズ曲意ヲ放置シテ留意セズンバ  
 謗法忽チ來起シ無間ノ獄ニ墮チナシ其期ニ及ビテ悔ヒ且ツ驚  
 クモ何ノ詮カアラシヤ當局先覺ノ士何スレゾ長夜ノ夢ヨリ醒  
 メザラン須ク眞ノ法華經ノ行者タル者先ツ國家ノ靜謐ヲ祈リ  
 各派ノ合同ヲ期シ而シテ積極的ニ根本ノ大義ヲ闡明スベシ徒  
 ラニ宗派ノ諍鬭ニ執心シ下ニ布教ヲナスモ甚ダオソキニ失ス  
 宜シク上ニ宣教シ奉リ國教ヲ選定シ一大戒壇ノ實現ヲ期スベ  
 キモノカ國主諫曉ノ祖判明々タリ實ニ國家ノ興廢一ニ法華經  
 行者ノ雙肩ニ懸レリ今ニシテ實現ノ基礎築カレズンバ聖日蓮  
 ハ大妄語ノ人トナリ後進ハ墮獄ノ責ヲ免ルベカラズ先覺正道  
 ノ師其レ是レヲシモ忍バル、カ

敢テ無學不省ヲモ願ズシテ廉言ヲ膝下ニ呈シ省察ヲ乞フ所以  
 ノモノ一ニ國家ノ前途ヲ想フ赤誠ノ結晶體ニ外ナラズ  
 願ハクバ速ニ愚言ヲ諒セラレ着々實行ノ運ヲ劃セラレンコト  
 ヲ進言シ御教導ヲ仰ギ奉ル恐々謹言

大正八年九月

神戸市楠町三丁目百拾貳番屋敷  
 日蓮眞門下働食生 中村裕茂 敬白

◎店員入用  
 店員十三歳より四五六歳迄の者五六名入  
 用御世話被下度候  
 京都市三條通小橋西入  
 三法堂藤田總治

日京法衣專門  
 青雲帽 青雲帽  
 飯田法衣店  
 京市佛具屋町五條北  
 振替口座大阪六八四七

定價表ハ御申送次第  
 何時でも御送申上候

明治三十年二月二十四日第三種郵便物認可  
大正八年九月十五日發行(毎月一週十五日發行)



(號六十九百二第)

本佛釋尊の大慈悲... 大僧正  
日蓮聖人教義綱要... 僧正  
曼荼羅本尊の文明... 權大僧正  
思想の調整

本多日生  
井村日成  
野口日主  
成島日衛

機微譚話... 九三直江兼  
田中實氏の質疑に答ふ... 九四苦樂超  
富士川博士に質す... 九五機軸清  
統一俳句... 統一團報

山根青村  
記  
畠山友次郎



《九州》晴天會主催第二回國民力養想大演講會紀念影(大正八年八月十一日)  
左列一 西工學士、中原教、大僧正多生日、下海海海、山中若古、古賀實榮  
左列二 高橋精治、藤吉良右衛門、藤三郎、藤田圓治、石橋俊藏、宮本順吉、中田常吉、山本憲吉、法泉寺職、二左列  
左列三 富重仁三郎、桑野近雄、高口知、山本正太郎、三留留衛門、南正寺職、原武一、高橋初次郎、江入初次郎、左列  
亮田本、郎

發行事務取所 東京小石川區白山前町一統編輯所  
振替口座東京三三五三番

▲本誌事務取扱所東京市小石川區白山前町統一編輯所(▲本誌定價一冊) 發行所東京市淺草區北清島町十四番地編輯所(▲本誌定價一冊) 印刷所東京市日野區日野(▲本誌定價一冊)

念珠ならば小野嘉助店へ  
日蓮宗各本山御用達  
願本法華宗妙滿寺御用達  
●御念珠各種  
弊店の特色は實用を旨とし從來  
調進仕り候へば多少に不拘御用  
命願上候  
京都市寺町通繪師下ル  
念珠 小野嘉助  
電話 中二六〇八番  
振替口座大阪一九七二〇番



布田 眼の薬 効能、たぐれ目、かすみ  
ち目、うち目、つかれ目、はやり目、トラホ  
ーム等  
定價壹瓶、拾五錢、廿錢、卅錢、五十錢、  
七拾錢、壹圓

布田 血の薬 定價二包入拾五錢、十  
五包入壹圓、効能、男  
女ちの道、産前産後、めまい、たちくらみ、  
時候あたり、氣絶、のみすぎ、酒毒、婦人  
病、貧血疾、風邪  
千葉縣山武郡源村上布田參白番地藥王寺  
布田 藥 本舖 齋藤 日章  
田血の藥 (御注文は總へて下記振替に)  
(振替東京第六七九一番)

日蓮各宗 寺院 御僧

法衣 草木 一直に御聯想下  
京都 三條通鳥丸東入ル町  
草木本店  
電話 中七三五番  
振替口座東京一五五九番

東京淺草區三好町二番地  
草木支店  
電話 下谷三四三四番  
振替口座東京二四五六八番

●荷も神佛具を調製する敬虔心を以て奉事仕能●  
佛像佛具 調度所  
宮殿幢天蓋一式  
▲普通品定價郵券式錢封入送呈  
總本山妙滿寺  
總本山妙滿寺  
大本山本國寺  
日宗各教團  
京都寺町四條南大雲院前  
舊名「乾清」事  
大佛師 辻井岩次郎  
多少に限りず御  
用奉願上候也  
●御用仰せ被下候は、丁寧深切を旨と致候●  
電話 大阪八一五七番  
振替 下三二五八番

佛壇佛具一切卸小賣  
店三十員 五六十員 七十五員 以上  
各宗佛具御用達  
長距離電話中二七八三番  
振替口座東京二〇七一  
大阪 四二五九  
同 小橋東入  
佛具陳列場

生徒募集  
千葉縣千葉郡千葉町院内  
(千葉神社裏通)  
憲兵屯所向横丁  
私立 山口刺繡學校  
校長 山口京太郎  
規則書入用の方は御通知次第校則を  
進呈いたします

事務取扱 東京市小石川區白山前町 統一編輯所